

YMCA News

10



盛岡YMCAとともに一子どもたちの夢や可能性をどこまでもー



盛岡YMCAの英語教室での指導を担当しています【こかげ英会話】代表のハクセルです。向中野校の隣にある向中野公民館で毎週金曜日の夕方、子どもたちに英語を教えています。

私たちは、日本の公教育で行われている読み書き重視の英語学習ではなく、ESL (English as a second language) 教育で一般的に使われているTPR (Total Physical Response) というメソッドを使って、目で言葉の表す物や動作を見ながら、そのことを表す英語の言葉や文を聞くという方法で英単語のインプット学習をしています。読んだり書いたりしながら勉強、というスタイルではないので、これで本当に英語がわかるようになるの? と半信半疑の方もいらっしゃるかと思います。でも、私たちの想像を超えて、子どもたちは無限の可能性を秘めていて、毎週毎週、繰り返し同じ言葉や文を聞いていると、なんとなくこの事かな? から、それはこの事だね、と頭の中で英語を瞬時にイメージ化できるようになってくるのです。実は、英語学習はスポーツと似ています。

コツコツ、コツコツ、少しずつ続けていると、ある時ふっと理解しているとわかるようになります。そこまでは苦しい事ももちろんありますが、トランプなどのカードゲームや英語のボードゲームを使って、楽しく学べる内容で指導ができるように工夫していますので、ぜひ、一度体験してみてくださいね。

盛岡YMCAが掲げている三つの使命のうちの一つ、「こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。」は、私たち【こかげ英会話】が指針として掲げている考えと共通しているところがたくさんあります。子どもたちの可能性は無限大、英語を学ぶことでその可能性はさらにさらに広がります。同じゴールを掲げる盛岡YMCAで英語を指導できること、神さまのお導きと共に子どもたちの成長に役買える機会をいただいていることに深く感謝して、これからもがんばります。

こかげ英会話 代表 ハクセル 美穂子
校長 ハクセル ジョー

盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

こんにちは!はっちです!私たちは8月30日に外山森林公園で水鉄砲作りをしました。今回は、2人のスタッフと11人のリーダー、そして29人の子どもたちでの活動となりました。

この日は朝から雨が降っていて出発式はできず、受付をしたらそのままバスへ。バスでは久しぶりにバスプログラムを行いました。「たまごにとわり」の歌では、別の言葉に置き換えたりするなど、自分なりの楽しみ方をしている子や、その友達を見て笑っている子などいて、にぎやかなバス移動でした。外山森林公園に着くと、水鉄砲づくりが始まりました。

竹を切る作業では、竹を押さえる子やどこまで切れているか見てみんなに教えている子、一生懸命竹を切っている子がいって、みんなで協力して竹を切る様子が見られました。最初はノコギリを使うことを不安に感じていた子も、コツをつかんでくると職人のような目で真剣に作業をするようになりました。水鉄砲の装飾では、ペンで絵を描いたり、シールを貼ったりして、自分だけの個性が光る水鉄砲を思い思いに作っていました。

お昼ご飯の後は、いよいよ水鉄砲遊び。実際に水鉄砲を打ってみて、勢いよく水が飛び出てくるのを見て、みんな驚き、嬉しそうにしていました。

こだわって作ったからなのか、水が勢いよく出る水鉄砲ばかりでした。遊び時間では、その最強水鉄砲を使ってリーダーに攻撃したり、追いかけて水をかけあったり、いろいろな遊びをしました。午後は大雨だったのですが、雨に打たれながらも水鉄砲で思い切り遊んで、たくさん濡れていました。帰るころには雷も鳴ってきましたが、子どもたちはあまり怖がる様子を見せず、それだけ楽しい時間を過ごし、楽しい気持ちになっていたのかなと感じました。

天候が悪い中の活動でしたが、そんな中でも全力で遊んで楽しんでいる子どもたちのキラキラな笑顔を見ることができました。本当に楽しい1日でした。ありがとうございました!

岩手大学3年 佐藤亜美(はっちリーダー)



ぶらいむ・たいむ前潟校スタッフ 大久保里美
石川 梨

第47回 岩手県サッカースポーツ少年団大会



9月5日、6日と盛岡YMCAベストキッズの選手たちが第47回岩手県サッカースポーツ少年団大会へ参加してきました。今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、例年に比べ遅い開催となってしまいました。ベストキッズの選手たちは、「自律して、自立して、自覚する」というチームテーマの下、練習を積み重ねてきました。

怪我や新型コロナウイルスの影響で全員がそろうことが難しかった中で、怪我をしていても練習を休まず、仲間たちのために自分のできることを探す。学校行事等で放課後に予定が入ってしまっても、遅れてでも練習へ向かい、チームメイトと共に過ごす。そのような姿勢が今年度は特に多く見られ、仲間のことを大切にできるチームになっています。

そのような良いチームにはなりましたが、大会結果としては予選リーグ敗退となりました。大会中、1試合1試合を戦い、負けて悔しい思いをする中に、「この場面では勝てたけど、まだあいつには試合として勝てない。」というこれまでは自分たちで作り出すことのできなかった前向きな空気が芽生えていました。その結果、1勝3敗となってしまいました。最後の試合の試合終了の合図まで自分たちのサッカーをして戦い抜きました。しかし、最後の試合が終わると、緊張の糸が途切れたように悔しい思いがあふれ、前向きにとらえようとしていた選手たちも放心状態となっていました。

全部が終わった後に、選手たちへは現実を受け入れ、前へ進む原動力としようという話をし、現在は切り替えてまっすぐ進んでいます。10月4日からは全日本少年サッカー選手権大会が開催されます。1か月という短くも長い期間を必死で過ごしてきたベストキッズの選手たちの活躍にご期待ください!

盛岡YMCAサッカースクールディレクター 向平悟



英会話教室の様子



毎週金曜日向中野公民館で行っている、英会話教室の様子をお伝えします。現在は小学1年生から3年生のクラスが8名、小学4年生から6年生のクラスが3名の計11名が通っています。

いつも賑やかな声が公民館の外に聞こえてくる英会話教室。低学年クラスの様子を見てみましょう。この日は口を動かす練習として、カードに書かれた英単語をみんなで元気に発声して、学童でのゆったりモードから楽しく英会話モードへ!ここから、ジョー先生と一緒に楽しい時間が始まります。

カードを使ったリピート練習の後は、ボードゲームを使って楽しみながら英語に触れていきます。普段接している動物や生き物は英語ではなんと言うのか?女性の魔法使いと男性の魔法使いはそれぞれ何と言うのか?などなど一人一人がジョー先生の質問に答えていきます。

そんな楽しい時間があつという間に過ぎていき、気が付けばレッスン終了の時間が近づいてきます。最後は、みんなで音楽に合わせて単語の発音をし、一人一人「ロック・シザース・ペーパー」(日本でいうところのじゃんけん)をして、レッスン終了。とても楽しそうな顔が見られました。

そんな賑やかな低学年クラスから、ちょっと大人な?高学年クラスへ。高学年クラスも英語の音や単語の発音を行いながら、低学年クラスよりもちょっとだけレベルがあがり、触れる英単語の数も増えていきます。ジョー先生とコミュニケーションを取りながら、レッスンが進み、テキストを使っての学習も行っています。レッスン終了に合わせ、ジョー先生の掛け声が聞こえてきます。その声を聞いた子どもたちが、公民館の窓とカーテンを閉め今日のレッスン終了です。

「YMCA英会話教室」:音楽やゲームなどを通して楽しみながら“生きた”英語に触れることが出来るYMCAの英会話教室です。

日時 毎週金曜日:低学年(1~3年生)コース 16:20~17:05
高学年(4~6年生)コース 17:20~18:05
場所 向中野公民館(向中野2丁目37-18)

※YMCA向中野センター向い

YMCAの英会話教室は、「こかげ英会話」に講師派遣をいただきレッスンを行っています。



国際協力募金



今年も国際協力募金の時期がやってまいりました。YMCAの国際協力募金は、全国のYMCAで毎年実施されており、昨年度は全国で45,583,005円の募金が寄せられました。

2019年度の盛岡YMCAの募金活動は、日本YMCA同盟を通してインドのタミルナドゥ州にある「セント・ボニファス・アンバハム」への支援を目的に行いました。セント・ボニファス・アンバハムは、貧困で家族とともに暮らせない子ども達のための施設で、4歳から18歳の子どもたち約300名が共同で生活をしています。2015年と2018年に、YMCA同盟が主催のインドスタディーキャンプに、盛岡YMCAからボランティアリーダーが参加し、セント・ボニファス・アンバハムの状況を目と肌で触れ、支援先と致しました。

11月23日には盛岡市大通りを中心として、街頭募金を行いました。YMCAの各プログラムメンバー、大学生のボランティアリーダー、スコーレ高校の生徒、スタッフなど、全部で約70名の方に参加いただき、寒い中ではありましたが一人一人が、一生懸命活動してくださいました。2019年度はおかげさまで、個人募金と街頭募金の総額を合わせて452,618円が集まりました。

2020年度は、11月1日から2月29日までを募金の受け入れ期間とし、皆様から寄せられた募金は、日本YMCA同盟を通して世界各国のYMCAの支援活動に使われます。

毎年、募金活動を継続して行っておりますが、顔が見えない、今までもそしてこれからも、もしかしたら会うことのない人かもしれない、そんな人たちのために何か行動ができるというのはとても尊いことだと募金を通して子どもたちに伝えたいと思います。2020年度も国際協力募金活動へのご理解・ご協力の程、宜しくお願い致します。

国際協力募金担当 中村圭一

<2019年度盛岡YMCA国際協力募金使途と募金額>

使 途:セント・ボニファス・アンバハムへの支援

募金額:452,618円

<2020年度YMCA国際協力募金の主な使途>

パレスチナ/難民支援、ギリシャ/難民支援、ミャンマー/公衆衛生活動、カンボジア/チャイルドケア、タイ/保護活動、ベトナム/学校建設、在日外国人支援など



「悲しむ」こと

ワイズメンズクラブという団体がある。その目的は、YMCA活動をサポートすることによって地域を支援することだ。全国にYMCAがあるところには、ほとんどワイズメンズクラブがあり、その数約140クラブ、2,500名の方々が奉仕されている。盛岡YMCAは、もりおかワイズメンズクラブからサポートされている。メンバーは現在14名。チャリティーランや国際協力募金の活動に加え、リーダーの研修の補助などその活動範囲は多様だ。このクラブの現会長は、長岡さん。長い間勤めていたIT関係の会社を退職された後は、YMCAの水泳やサッカーの送迎バスの運転などのお手伝いをしてきている。こどもたちから「ムック」という相性で親しまれている。

さて、この長岡さん、犬が大好き。でも、今は飼っていない。かつて17年間、家族のように可愛がっていた柴犬を失った時、「こんなに悲しいのならもう二度と犬なんて飼うものか!」と決意したのだ。しかし、犬が好きであることには、変わりはない。そこで近所のご家庭が飼い始めたハスキー犬をこよなく可愛がることにした。しかし、数年経つとこの犬に腫瘍が見つかり、あっという間に死んでしまった。本当の飼い主のように悲しんだ長岡さんは、香典を包んでお線香を上げに行ったそうだ。

長岡さんは、月に一度、雫石の軽トラ市に富士宮焼きそばの屋台を出店している。収益の一部は、YMCAのボランティアリーダーの支援に充てられている。僕もリーダーたちと一緒に時々手伝いに行

くようにしている。静岡県富士宮まで行ってライセンスを取得してきた長岡さんは、モチモチの食感と独特のソースでとても美味しく焼く上げる。いつものことだが、犬を連れてくる人が通ると「ちょっとお願い!!」とお店を僕らに任せて、通り過ぎようとしている飼い主に気軽に声をかけてしばし犬談義。とても楽しそうだ。

日本のYMCAのブランドパーソナリティは、「心をひらき、分かち合う。前向きで、まわりを惹きつける魅力を持つ。」と謳っている。とても難しいことだが、そのためには、長岡さんのように「まっとうに悲しむこと」「ちゃんと悲しむこと」が必要ではないだろうか。僕たちはもっと素直に心の切なさ、悲しみ、苦しみをはっきりと口に出して表現すべきだ。悲しむべき時に悲しまない人間になってはいけない。

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」

(新約聖書 ローマ信徒への手紙 12章15節)

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

※互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと

絵本コラム⑥

「おこだでませんように」

くすのき しげのり 作 石井 聖岳 絵

小学1年生の【ぼく】は怒られてばかり。母の帰りが遅い日は妹と留守番。遊んであげても泣く。すると「また妹泣かして!」「まだ宿題してないの?」と怒られる。学校では「お前はルール知らんし、乱暴だからいれてやらへん」と仲間外れにされる。悔しくて殴ったら友達は泣き出し、先生が来てぼくだけが怒られた。

七夕、『サッカー選手になれますように』『ピアノが上手になりますように』と友達が願い事を書く中、ぼくは悩んで、『○○○○○○○○○○○○○○』と書いた。それを見た先生は…?

ちょっと乱暴で、思いを言葉にして伝えるのが苦手。善かれと思ってした行動なのに...自分なりの理由があるけど、言えばまた怒られるから口を噛む。本当は褒められたいのに、いつも怒られてしまう【ぼく】。友達が短冊に将来の夢を書く中、反転文字で一生懸命書いたぼくの願いに胸が詰まります。

泣かせた方が悪いと一方的に決めつけたり、理由を聞かず怒ってはいないだろうか?と表に見える行動だけでその子を判断しないことの大切さを感じられる一冊です。怒る・怒られる双方の立場から考えさせられ、描写も細かく、子どもはもちろん大人までお勧めの絵本です。

社会福祉法人 太田福祉会

ふじみ保育園 保育士 中川 望



●維持会員
廣川健太郎、廣川厚子、廣川はるな、浅沼誠久、花田暉、山崎詩織、林間つきみ野教会、照井夏輝、光永尚生、金ヶ澤亮、齊藤優太、魚住恵、accommon、川坂保広、ガイアリンク(株)、小林明彦、見晃弘、尾張幸久、魚住英昭、清水治彦、若井淳、尾形裕一郎、高瀬裕彦、森山日菜乃、森山幹大、大塚英彦、押切梓、名古屋恒彦、名古屋理恵、今野健男、今野聖子、南原良哉、伊藤眞一郎、伊藤みどり、石川菜、浅沼慧、浅沼美希、佐藤翔、小川嘉文、小川明佑、阿部深雪、高橋友恵、濱塚有史、濱塚真美、武田理恵子、菅原歩、藤原依音、植田一茂、武田悠、向平悟、向平ちひろ、滝川佐渡子、二戸貞文、田村治之、大久保里美、東森聡、田村育代、今野謙治

●寄附金
花田暉、山崎詩織、光永尚生、瀬川利恵、川坂保広、小林明彦、人見晃弘、尾張幸久、高瀬裕彦、今野健男、今野聖子、南原良哉、佐藤翔、高橋友恵、田村育代

(2020年9月30日現在)敬称略

表紙の写真から



「盛岡YMCAサッカークラブ代表チーム「ベスト・キッズ」観戦していると、子どもたち自身で考え、判断し、仲間を信頼してプレイしているのが伝わってきます。

最新情報はこちらでチェックできます! 「盛岡 YMCA」で検索ください。

ホームページ  : <https://www.moriokaymca.org/>

facebook  : <https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/>